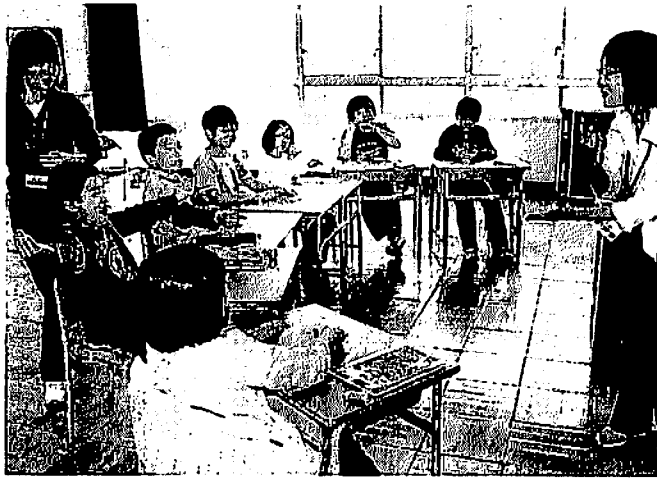


# 国内初、手話で授業

耳の聞こえない子どもたちに手話を主体とした授業を進める全国初の学校「明晴学園」が今春、東京都品川区に開校した。語順などの文法構造が異なり日本語とは「別言語」の日本語と、日本語の読み書きの両方を使いこなす「バイリンガル」の育成を教育方針に掲げ、コミュニケーション能力や学力の向上を目指すしている。

戦後のろう教育は相手の口の動きから言葉を読み取ったり、補聴器でわずかな音を聞き取ったりして、発声訓練をする「聴覚口話法」が中心だった。しかし障害が重いと上達が困難で、教員との意思伝達も難しいケースがあった。近年になって、手

## 東京・品川に「明晴学園」が開校



分数を扱った算数の授業を手話で行う担任教員（右）と5年生の児童たち＝4月23日、東京都品川区の明晴学園

話を指導の一部に取り入りが特徴だ。れる特別支援学校も増え、斉藤道雄校長は「ろう者にとって無理に声を出話をもとめる」「第一言、そうとするのは苦痛。意思」と位置付けているの

全国から問い合わせ

## 本県からも通学者

## 読み書き併せ学ぶ

して、手話と文字を身に付ければ生活に困らない」と説明する。

学園で三歳以上が通う幼稚園は日本手話の表現力を養成。小学校に当たる小学部は発声を伴う国語と音楽の授業がない代わりに、手話と日本語（読み書き）の二科目を設定している。都が提案した手話主体の教育が昨年三月、教育特区に認定され、学習指導要領が定める学習内容の振り替えが可能になった。

分数を扱った小学部五年生の算数の授業。「これはいくつ」。担任が半分に分けたせんべいを掲げて手話で問い掛ける。と、七人の児童は二分の一を意味する単語を両手で示したり、黒板をノートに書き写したりした。学園に在籍しているのは幼稚園部十六人、小学部二十五人の計四十一人。首都圏のほか本県から新幹線で通学している子どももいる。全国から入学や育児相談の問い合わせも寄せられているという。

同学園は入電03(6380)6775。

技術磨ける環境整備を佐々木倫子・桜美林大言語教育研究所長の話、手話は耳の聞こえが悪くても最も自然に習得できる言語で、教科の指導に適している。聴覚口話法ではコミュニケーションがうまく取れず、自分の中に閉じこもっていたような子が、手話の授業で表情ががりりと変わったという例もある。子どもにとって、手話が学力や思考の支えとなるよう技術を磨ける環境を整えるべきだ。ろう者を教員として育成してこなかったこともあり、聴覚障害のない教員が多く、手話が得意でない人もいる。ろう者の教員採用を増やし、指導のレベルアップを図る必要があるだろう。

「フに、国民に割り当てら

「ネスジェットの利用促進

手続ぎや制緩和、中身で専用飛、都、衛隊や、利用化な、可能性、と比べ、環境の、企業、

三、ワ、イ、リ、同、と、ハ、池、込、を、す、各、の